現場の先生だからこそ「聞き取れる声があり、学校への新たな視点がある」との思いから始まったこの「体当たりインタビュー」。今回は、15年以上お付き合いさせていただいている東京家政学院中学の平木先生です。いい意味で女子校の先生とは思えない豪快でおおらかなお人柄ですが、まずは印象深い思い出話から…。

元ラガーマン・経営者
立石 哲也の
体当たりインタビュー

第五回 | 東京家政学院中学校教諭
平木 登 先生

様々なタイプの教員が身近に寄り添う環境が、生徒の安心につながっています。

平木 登 先生 プロフィール

日本大学大学院理工学研究科博士前期課程工業化学専攻修了の後、東京家政学院中学・高等学校非常勤講師、順天堂大学医学部進学課程化学教室嘱託を経て、東京家政学院中学・高等学校教諭、現在に至る。趣味は、料理（料理は、実験に似ていると思います）。三線演奏（初心者）、化学実験（「一応、論文を3報発表しています」※ご本人談）

調理の実習にも寄り添う場面が

「研究職を希望」から女子校講師に。今では東京家政学院一筋35年

立石　先生とは、最初にお会いしてから15年以上になります。私が20代、30代の頃でしたか、ある日の夕方、東京家政学院にお邪魔して、その流れで会合を開いていました。終電を逃して、先生に手配していただいた深夜バスに乗ったのですが、ふと目を覚ますと、まったく見覚えのない場所だったのです。そのまま朝を迎え、知らない土地の特産物を買って帰ることになった記憶があります（笑）。先生の豪快な行動に驚かされ、予想外な出来事もたくさんありました。当時、女子校の先生のイメージとかけ離れていたのですが、どういった経緯で先生になられたのですか。

平木先生　私の父が順天堂大学に勤務していました。その関係で、中学卒業まで千葉の順天堂大学の構内に住んでおりました。そのような環境の影響で、研究職を希望していたのです。大学在学中に、中高の教職員免許を取得しましたが、研究者になるために、大学院に進みました。しかし大学院卒業後、内定していた企業が合併されて、内定が取り消しになったのです。就職課に相談をしたら、東京家政学院の講師を紹介していただいたのです。それが始まりでしたね。今では、年齢が高い順から3番目になります。

立石　たいへんな紆余曲折ですね！ 中高の先生には興味がなかったのに、東京家政学院一筋35年には驚かされます。よほど、教師という職業が性に合っていたのですね。共感できるものがあります。私も学生の頃は毎日、先生に怒られて、親のスパルタ教育もあって教育業界だけは避けていたのですが、何かの縁で渋々、就職しましたが、子どもたちと楽しく接しているうちに、天職だと感じるようになりました。また、先生が怖いという先入観もなくなり、今では先生に取材できるようになりました（笑）。人生は、思い通りにならなくても、なぜか、天職は見つかりますね！

平木先生　そうですね。私も全く女子校とは縁遠い生活をしていました（笑）。なので、紹介された当初は、東京家政学院の名前も存在も知りませんでした。後から調べると、創設者の大江スミ先生は20歳で東洋英和女学校を卒業したのち、数学の教員として同校に勤め、明治30（1897）年、女子高等師範学校に進学します。女子高等師範学校卒業と同時に沖縄に赴任し、その後、文部省（当時）より命をうけて家政学研究のための英国留学に行かれたのです。そして、千歳船橋の寮に学生専用の自動車教習所を作り、女性の社会進出のきっかけを作った一人です。今でも、生徒が「ごきげんよう」とあいさつをするのもその伝統の一つです。

立石　伝統が受け継がれているのですね。先生が、赴任した当時、学校はどんな様子でしたか。

平木先生　当時は、女子生徒がひしめき合って過ごしていました。エネルギッシュな女子生徒がたくさんいました。特に合唱祭や文化祭、体育祭などの行事では、盛り上がりをみせ、活発に意見を出し合い、時には悔し涙を流すなど、まさに青春真っ盛りでした。教員と生徒もよく話し合い、翌日にはさっぱりとした心持ちで新しいことにチャレンジする。毎日どこかで何かが起こっている活気に満ちた学校でした。

学力に応じたコース制、茶道、華道（大和花道）、マナーの講習、そして誰一人取り残さない学びの体制

立石　現在の生徒たちの様子はどうですか。

平木先生　時代の変化とともに、社会全体を見渡しても内向的な子どもたちが多くなったように感じます。本校でもそのような変化を敏感に察知し、早くから二人担任制を導入しました。子どもたちが、自らの力で信頼できる大人を選び、自分の心を開示することによって自己肯定感を育む…。子どもたちにとっては、様々なタイプの教員が身近に寄り添ってくれる環境が、安心につながっていると感じています。

立石　現在、東京家政学院はどのような取り組みをしていますか。

平木先生　3点アピールポイントがあります！

1点目は、生徒の学力実態に応じたコース制を導入したことです。現在、本校では新たな取り組みとして、リベラルアーツコースとアドバンストコースに分けた授業を展開しています。一人一人の進路希望に向けて丁寧に指導しています。

2点目は、大人として必要な教養として茶道、華道、マナー講習、キャリア教育等の多様な体験型プログラムを用意しています。将来、相手の気持ちに立って行動できる人になってほしいという思いや、困っている人に手をさしのべることができるようになってほしい、

立石 哲也 プロフィール

1975年生まれ。市川学園、中央大学卒業。教育関係の会社に就職。2012年、36歳で北赤羽に某FC個別指導塾を開業。2021年5月より浅草教室の運営も手掛ける。教室経営の傍ら、「子どもたちに幅広い選択肢を！」という想いから、首都圏模試で個別指導CPPリーダーとして活動をしている。

などという期待をこめた取り組みです。素敵な女性になって、多くの人々に大切にされ、まわりの人々を大切にする人になってほしいのです。

3点目は、誰一人取り残さない学びの体制です。少人数クラス及び1クラスに担任の先生が2人いるダブル担任制を敷いているので、学校についていけない生徒はいません。また、中3は放課後に発展的な学習を行う講習や、長期休業中に全学年で行われる講習などが充実し、手厚い指導を心掛けています。

先生と生徒の距離が近く、フランクで安心な関係。進学、将来に対する具体的な配慮も

立石　保護者としては、安心して進学させることができるということですね。私の塾の生徒が学校説明会に参加して、保護者が、生徒さんたちが活き活きとしていたとおっしゃっていました。やはり、徹底的に面倒を見て、自己肯定感を育てるのは、大事ですね。

平木先生　入学した保護者、生徒は満足していると思います。先ほども話したかと思いますが、先生と生徒の距離が近いので、フランクな関係になっています。生徒にとっては居心地がよいかもしれません。

同じ敷地内に大学があるので、大学の雰囲気を感じることができます。また、高大連携もしているので、大学の授業も受講することができ、そこで単位も授与されるのです。場合によっては、他大学でもその単位は認められます。

立石　最近、管理栄養士という資格も注目されていますよね。

平木先生　資格があると幅広い仕事に就けるので、大学では人気があります。

立石　学校内での自分の居場所、充実した学校生活、将来性のある進学を考慮すると素晴らしい学校ですね！

「食パンにぶつぶつの穴があるのはなぜだと思う？」。そんなみんなが興味を持てる身近な例を化学の授業に

立石　先生は、理科の先生ですが、小学生で習う理科についてどう思われますか。

平木先生　小学校で習う分野には実を言うと高校でも習う分野があります。例えば、「中和」という化学反応は、小学校6年生で習って、中学生でも習って、高校になると化学基礎、化学で習います。また、「溶解度」という内容は中学校入試でよく出題されますが、これも中学、さらに高校でも習います。小学生で習う「気体」の性質も 中学校、高校でも習っていきます。つまり、小学校で習う理科をしっかり勉強すると、大学入試まで使えるのです。びっくりしたのは、小学校4年生で習う水が氷になると体積が増えるという内容も、これも高校の教科書に載っています。

立石　小学校の理科が大学入試までつながっているというのは意外な発見ですね。ところで先生は授業で教えている時に気をつけることはありますか。

平木先生　「化学を教えるときにどのように教えるとわかりやすいか」ということを考えます。身近な化学（自然科学）現象を例に挙げながら、化学は身近な物であるという点を強調しながら、教員の一方的な授業ではなく、全員参加型の授業になるよう心がけています。例えば、食パンを見た際に、ぶつぶつの穴がある理由は発酵で生じた二酸化炭素が抜けた後である、という流れで説明するとわかりやすいですよね。

立石　理科について中学受験生にアドバイスができるとするならばどんなものがありますか。

平木先生　化学分野に限定すると、4年生では「物質の変化」、5年生では「とけた物」、6年生では「水よう液の性質」と大きく分けることができます。小学校で使う、固体の種類、よう液の種類、気体の種類も限られています。これをテーマごとに整理し、まとめるといいですね。物質の変化は、水の状態変化とそのときの温度、とけた物は、ミョウバンと食塩とホウ酸のとける度合い（溶解度）の表を見ながら考える、あるいは、グラフから考える問題が中心です。水よう液に関しては、液性（酸性・中性・アルカリ性）の分類ができるといいですね。小学校で扱う、酸性とアルカリ性のよう液は限られています。指示薬の変化（主にリトマス紙でたまにBTB溶液）も合わせて整理してほしいですね。また金属（鉄とアルミニウムと銅が中心）と酸･アルカリとの変化（水素の発生）も整理し、気体の性質は、発生方法と性質をまとめてください。（主な気体は、酸素と二酸化炭素）学校ごとの過去問を見て傾向を調べることをおすすめします。

立石　最後に、これから生徒達にどのようなことが必要になってきますか。

平木先生　より多くの知識を有することは確かに大切かもしれません。しかし、知識だけでは乗り越えることができない社会の実相も、コロナ禍で証拠づけられたという思いがします。人々がもつ一人ひとりのよさや能力を結集して、様々な状況をよりよく乗り越えていく力こそが求められています。本校でお預かりした子どもたちには、自身の良さに気付き、自分の力を人々や社会、世界に生かしていくことを惜しまない人になってほしいですし、そのような活躍を期待しています。それがこれからの教育の在り方ではないかと考えています。

【取材後記】

個人的に東京家政学院の先生は平木先生以外にもお付き合いしている先生はたくさんいます。その先生たちに共通することは皆さんホスピタリティに溢れることです。例えば、模試会場で学校をお借りした際、スタッフに、手作りのスープを振る舞っていただいたり、積極的に会場運営のお手伝いしていただいております。千代田区には多数の私学があります。しかし、その中でも先生たちのそのホスピタリティとチームワークはどの学校にも負けていないと思います。この学校に進学したら充実した学生生活が送れることは約束できます。今後の東京家政学院に期待をしております。